2018Aセメ　心理Ⅱ　上原泉先生　（水曜１限）

テーマは発達心理学。研究史を実験の手法を交えつつ紹介。

これに類する授業が開講された際に利用するとよい。

師は適宜ITC=LMSに載せられるが一週ごと丁寧に削除なさる。

試験は大問五問であった。

問題１は短答問題４問。

問題２は単語意味説明二問（三問のうちから選択）

問題３・４・５は説明論述（３は二問のうちから選択）

出題は授業順であり、上原先生の試験では後半ほど論述比重が高いことが考えられる

なお、本シケプリ（？）は、クラスの友人のシケプリからそのまとめとして前日に製作した。
第1－3回、第4－9回、第10－13回でわかれて、その間には短答テストを挟んである。最後に付録として投稿者による授業ノートを付したが、絶起を繰り返したこともあり、復習には使わなかった。利用価値は0とみてよい。

※gakubuki.blogspot.com

に原本を載せています。

間違いなど妙に指摘したくなった時はそこまで。

児童心理学の創始者はだれか

「子どもの精神」の著者　プライヤー

知能検査を開発したのはだれか

実験的要素の強い発達心理学　ビネー

プログラム的発達に力点を置いたのはだれか

アンチ行動主義　ゲゼル

生態学システム理論を提唱したのはだれか

ブロンフェンブレンナー

3つの要因を中心に考察した生涯発達理論を提唱したのはだれか

バルテス

自我同一性に主に焦点を当てて発達心理学を考察したのはだれか

ライフサイクル理論　エリクソン

道徳性発達理論を提唱したのはだれか

コールバーグ

第一回

発達心理学の分野の発展の経緯を述べよ

17世紀ごろまでは子どもは社会の中で”小さい大人”であり、他の大人と扱いは変わらなかった。18世紀、ルソーの子どもは心理的・社会的・文化的に大人と異なる、との提言を皮切りに子どもを大人と別のものとして扱うものの見方が広まっていく。19C後半（1882年）、プライヤーは自身の息子を３年にわたって科学的に観察して「子どもの精神」を著し、児童心理学を始めた。ダーウィンは、子供の観察や表情の研究を通して、発達心理学に生物学、動物学を応用するきっかけをつくった。20世紀初頭には実験的な発達心理学に取り組むビネーが初めての知能検査を開発し、WW2前後には知能検査が普及した。（環境優位説のワトソンをはじめとして）すべてを学習・経験で説明しようとする行動主義が流行したが、これに対しゲゼルは遺伝的に組み込まれたプログラム的な発達・成熟を重視した。ピアジェが生物学的視点から発達段階説を提唱した一方、ヴィゴツキーは社会的視点を重視し、教育学の分野に影響を与えた。1970年代にはボウルビィが子どもの精神的充足に着目したアタッチメント理論を提唱した。今なお他の研究分野との交流や既存理論の批判見直し、新たな研究手法を通じて研究が進められている。

第二回①ボウルビィ　アタッチメント理論

・「アタッチメント」に示される結びつきは何的ものか

情緒的

・アタッチメント形成は成長後の何に影響を及ぼすか

健全な人間関係

・ボウルビィの人間発達の四段階とはどのようなものか

生後2，3か月からの個々人を識別できないまま人の顔に関心を向ける状態、生後4，5か月からの母親を識別して反応する状態を経て、生後7，8か月から人見知りが始まる愛着形成期に入る。内的ワーキングモデルがこれで確立された生後2，3年ごろから愛着対象への身体的接触が必要なくなり、愛着の対象を他へ拡げられるようになってくる

第二回②ピアジェ　発生的認識論

・ピアジェの発生的認識論において、人間の認識は短期的にどのように発達するとされるか。

☆シェマ(suki-ma)

自分で得た〇〇のカテゴリーの定義概念

☆同化と調節

他に現れた〇〇を認識する/初めて出会った物事にたいして〇〇という新しいカテゴリーを定義する

☆均衡化

同化と調節によって自ら持つシエマの高次化を達成すること

・発達段階説における四段階はどのように定義されており、どのような経過をとるか説明せよ。

（ピアジェは、）ある行為についてそれ自体とその結果を想像するという”操作”がどれほどの水準でできるかによって、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期の4段階に分けた。二歳ごろまでの感覚運動期では、さらに6段階に分かれており、生得的な反射のみによる時期、生後２，３か月ごろの指をずっとくわえるなど自分の体の一部分への行動を連続的に行う時期、偶発的な物への働きかけによってどのように外界が動くかを把握していく時期、目的・手段を認識して物に接したり対象の永続性を成立させ、”いないないばあ”がを理解して楽しめるようになる時期、一歳過ぎからはじまる目的のためにいたずらなどいろいろな手段を試みる時期、永続性の理解や延滞模倣のように、自発的な想起に基づく表象がとれるようになる時期と続く。7歳ごろまでの前操作期では表象に加え象徴機能が成立し、見立てや振り、ごっこ遊びでのイメージの共有ができるようになる。4歳ごろになると概念に基づいた思考が直感的思考として芽生えるが、見かけに左右されて間隔が変わってもおはじきの個数が変わらないといった保存課題などはできない。11歳ごろまでの具体的操作期に入ると具体的に操作しやすいものに限って論理的操作、推論が可能になり、保存課題が可能になる。形式的操作期に至っては具体性を伴わない、比例のような対象間の関係について考えることができるようになり、仮説演繹的志向が可能になる。

・三つの山問題とはどのようなものか。

三種類の山の模型を見せてどのように見えるのかを答えてもらい、見えている部分のみ答える、見えていない部分の推測するも失敗、見えていない部分の推測ができる、3段階で空間的な他者視点を獲得したか調べる。

第二回③・第三回①ヴィゴツキー

・発達の最接近領域とはなにか

他の助けを借りることなく自力で達成できる水準と、外部の助けを経て達成できる水準の差

※ペーパーテストだけによる学習達成の判断は発達を見るという点では不十分。教育の仕方をこれによって変えるには無理がある、というポイント。これによって発達心理学は教育学への影響を強める

・高次精神機能はどのようにして発生するのか

他者との言葉を使ったやり取りたる社会的な外言、内言へと内化して自分の精神の中でさらに高次の言葉で思考出来るようになるというように精神間から精神内へ転化していく。

☆夭逝したヴィゴツキーの理論には実験が不足しており、ワーチなどが継承して実証を進めている。

第三回②ブロンフェンブレンナー　生態学システム理論

☆環境をマイクロ・メゾ・エクソ・マクロに分かれた重層的構造と定義して、4段階の環境と胡人それぞれの間の相互作用の中で発達が進む

第三回③エリクソン　心理・社会的発達の理論

☆自我同一性についての理論で各段階で危機と獲得の経験する過程を示した。ライフサイクル理論。

第三回④バルテス　生涯発達理論

☆一障害における様々な要因の影響の度合いを測る

標準年齢的要因（身体・社会の一員として）

標準歴史的要因（同年代への同様におこるの影響）

非標準的要因（個人的な体験）：これのみ比例的に増加

第三回⑤コールバーグ　道徳性発達理論

ルール以前・ルールの遵守・ルールからの解放（良心など）の３段階

第三回⑥乳幼児の記憶

・乳幼児の記憶はどのようにして測定されるか

注視時間の測定・モビールの実験・延滞模倣

・馴化とは何か

ある刺激に対して、徐々に慣れて鈍感になり、反応しなくなること

・馴化脱馴化法とともに多く用いられる手法は何か

２つの画を見せたのち、時間を空けて片方を変えて再び２枚の画を見せたときに変わった片方のみを注視するかどうかをみる選好注視法

※生後６か月程度まで

６か月以下の乳児でも１週間以上の記憶が可能。

９か月ごろまで１か月記憶を保持するのは難しい一方、

１０か月を過ぎると突如数か月の記憶が可能になる

・おしゃぶりを使った反応を何というか

吸啜反応

・サッケードは何運動か

眼球運動

・エントレインメントとは何か

同調と模倣による母子相互作用

・典型的なモノから概念を獲得する理論はだれの何か

ロッシュのプロトタイプ理論

第４回　幼児の記憶

・潜在記憶とは何かを対義語に触れながら説明せよ

自覚的に思い出すことのできる顕在記憶とは反対に無意識的に記憶された記憶。

☆幼児期は顕在記憶が発達していない一方、潜在記憶については大人並み

・幼児に対して記憶のインタビューができるようになるのはいつからか？

言語認識・時間認識が成立し、エピソード記憶・自伝的記憶が急激に発達し始める４-５歳ごろ

・ピアノの弾き方・一問一答的な記憶のことはそれぞれ何に分類されるか

手続き記憶・意味記憶

・ワーキングメモリとは何か

短期記憶の保持（大人では約七単位）に加え、物事の理解のプロセスたる認知処理をする機能

・馴化脱馴化法で何がわかるか

一歳後半で短期記憶が急成長した（反応できるイラストの数が増えた）

・乳児と幼児の違いとは何か

記憶に言語がかかわるか

第５回

・自らの記憶力を発達させる方法

７歳ごろ以降の反復して覚えるリハーサル方略

・記憶・行動に対する客観的認知について含まれる二つの機能を上げた上で名称を答えよ

エピソード記憶・自伝的記憶の発達に伴い発達し、自分の記憶状態を把握するモニタリングと記憶力を向上するための行動に関わるコントロールからなるメタ記憶

☆コントロールは５,６歳ごろから

・出来事に関わる記憶の体制化について説明せよ

場に関する一連のつながった立ち振る舞い方のスクリプトにおいてスロットを持った知識の塊たるスキーマがモジュールとして働いている。

・PKでける前にどこにボールが来るか予測できるかにかかわる眼球の運動とは何か

サッケード。２，３か月から可能

これに遅れて追跡運動が発達

☆２，３か月ごろから可能になる奥行き知覚…視覚的断崖と衝突回避

・奥行き知覚に必要な要素を三つ挙げよ

きめの勾配・運動視差・両眼視差

☆色認識　赤を区別するのは早い

☆生後二か月から顔への興味が顕著に

第６回①

・知覚の恒常性とは何か

見え方が変化するのに対して、形状・模様・色・明るさなどが安定していて認識が変わらないこと（車が遠くへ行っても絶対にミニカーには見えない）

☆斜視…片目だけで物を見ようとするため弱視になる危険性あり

☆弱視…先天性白内障の可能性も

第６回②　コミュニケーション

・赤ちゃんが初語を発するまでどのようなコミュニケーションがあるか

見つめ返すといった無意識な同調と舌出しをまねるなど故意の模倣といった母子相互の作用たるエントレインメント現象がある

・６か月を越して認められるようになる三項関係について述べよ

二つ以上に同時に注意を向けられるようになり、相手の行動を考えるため、何を見ているかを読み取る共同注意によって視線コミュニケーションが図られる。

・視線コミュニケーションの発達について三段階を踏まえて述べよ。

おいいいここの原稿が仕上がっていない！！

大人に自分へ注意剥けさせるため相手を凝視する参照的注視、一緒に見てほしいと相手の視線を誘導する始発的共同注意、得体のしれないものを目にした時の社会的参照

いやここにね？シケプリは共同注意、始発的参照注意、社会的参照の順やないて書いてある

☆社会的参照について　ちょっと危険めな行為に対して親が許してくれるか目線で伺うかどうかで有無を知る

☆三項関係が成り立つようになると、物の名前が覚えられるようになるので言語発達を促す

・延滞模倣の対義語は

即時模倣　感情への共鳴

☆動物にはごっこ遊びなどの想像・視線コミュニケーションはない

※自閉症児は視線を合わせるのが苦手なため言語発達が遅れる

赤ちゃんと音声

・自然と赤ちゃん向けにはなされる言葉とは何か

マザリーズ　（抑揚・テンポ・高さ）

☆童謡も同じことばが繰り返されるので大切

☆胎児期は母親の声を聴きなれているので生後すぐ母親の声を好む

☆１０か月程度でrとlが聞き分けられなくなる日本人乳児

・乳児の初語の発生までの過程を述べよ

クーイング（叫喚音）によって話すことが芽生え、６か月ごろになると、身体運動が同調して手足を動かす運動が最高潮になり、こののち話しながらの呼吸が上手くなることで、言葉を発するのに適した喃語と笑いが出現し、初語に至る。

☆言語によって喃語のトーンが異なる

☆言葉学習の謎　即時マッピング　対応をほぼ間違えない

☆名詞が動詞より有利

・名詞が獲得されやすい理由とは何か？

動詞がコロケーションに気づく難しさがある

第８回

・名詞の獲得にかかるバイアスを挙げよ・

新奇な語を聞くと示された事物全体の名称だと想定する事物全体バイアス、固有名詞ではなくカテゴリー名と想定する事物カテゴリーバイアス、形が似ているものを同カテゴリーと認識する形バイアス、一つのものにつくカテゴリーは一つと想定する相互排除性バイアス

☆基本カテゴリーを獲得した後は固有名詞か下位カテゴリーとみなす

・上位カテゴリーの学習に必要なモノは何か

メタ知識

・選好注視を利用した言葉学習の実験を何というか

感覚様相間（モダリティ間）選好注視法

・動詞の正確な理解には

文法学習が必要

・新しい言葉を蓄積していくことを何というか

メンタルレキシコンの蓄積

第９回

・発達初期の語彙獲得の理論について一つ挙げよ。

ロッシュはプロトタイプ理論で典型的なものを中心に概念の特徴を把握して形成していくことを提唱した

・概念の獲得時の分類基準二種を挙げよ

知覚的属性と機能的属性

・１発話当たり平均何個の形態素（単語より細かい！）を含むかを著したものを何というか

平均発話長（MLU）※100サンプル取る

☆２歳ごろから助詞が出る

第９回②　運動の発達

☆６か月ごろの大きな変化

物が握れるようになる

☆４歳ごろの大きな変化について

はさみの使用がうまくなる

２，３か月で視覚が発達し、１０か月ごろからコミュニケーション・記憶が始まる。４歳ごろになるとエピソード記憶とスクリプトの発達がみられるようになる

☆復習！スクリプトに関連した三単語

モジュール

スロット

スキーマ

・原始反射とジェネラルムーブメントをそれぞれ説明せよ

原始反射は、生後まもなく始まり生後３，４か月で消失する随意運動の前に見せる反射で、足の裏をくすぐると扇状に指を広げるバビンスキー反射、突然に下に下げたときや仰向けに寝ているときにに四肢を伸ばして抱き着こうとするモロー反射、口に物が触れると吸う吸啜反射、腋下で持ち上げて前へ傾けると下肢を交互に屈曲伸展させる自動歩行、物に触れると握る把握反射の５つが主なもので、これに対しGMは生後１，２か月たってはじめてあらわれるカオス的な自発的運動で最初は全体の粗大運動であるライジングがはじまり、２か月目にはフィジェティーといって各部分の屈伸へ分化していき、三か月目には消失する。

第10回

・乳幼児の微笑について述べよ

乳幼児は覚醒基準が低下したときに生理的自発的微笑をする。人見知りが始まる前の生後３か月ごろから対人関係を志向した社会的微笑が始まる。

復習　人見知りが始まる時期を何という？

７，８か月ごろ～　愛着形成期　（ボウルビィ）

・人見知りを何というか

分離不安

☆ストレンジシチュエーション法

→分離に対して回避・安定・アンビバレントの３分類+無秩序

・チョコを第三者が移動させるという設定の実験で測られるのは何でこの実験をなんというか

誤信念課題で人の立場に立って人の心を推測し、因果関係を説明できるようになるという心の理論を持てたかを調べる

・性格はどのようにして意識されるか

４歳ごろのエピソード・自伝的記憶の成立

☆物の永続性

・数の理解を調べるのに何を使うか

馴化脱馴化法

・１歳半で数の理解に次いで理解するものとはなにか

序数

・発表や話し合いは何の発達を促すか

話し言葉に書き言葉を加えた二次的言葉

・数の理解における３手法

min方略（手間を少ない方へ）・検索・分解手法（さくらんぼ計算）

復習　〇〇方略

リハーサル方略…繰り返し復唱などのアウトプットによる記憶定着法

第11回

・張り紙がなされる理由とは何か

禁止されている行動への自己統制が小学生になって出来るようになるから

・中学年までは自己嫌悪は生まれない理由は

自己評価の方が甘くなりがちで、自分はこうでありたい、という将来像を考えるため。

☆８歳前後…事象の共変性に基づく因果的推論が可能になる

☆９歳の壁

国語…比喩

算数…分数・比例

・道徳基準の判断の変化について述べよ

８、９歳ごろを境に結果論的判断から動機論的判断へ変遷する

・児童期以降の人間関係について３つ例示せよ

ギャング・グループは主に男子に見られ、地位、役割分担、暗黙の了解があり、縦の関係性でつながっている。ちゃむ・グループは主に女性の同性間の親友集団で、排他的で抑圧的、メンバーの共通性が重視される。高校生以上で主にみられる男女混合の互いの個性を認め合うピア・グループはアイデンティティの確立に大きく寄与する。

第12回

・ボウルビィの提唱した安定した仲間関係の形成に必要とされるものはなにか

内的ワーキングモデル

☆社会ネットワークモデル…親子関係関係なし

・思春期の不安定要素２つのべよ

他者にいい印象を与えたいというプレッシャーからくる対人不安（恐怖）

否定的同一性を選択する非行

・思春期以降の親子関係について２つの要素をのべよ

独立しようとする心理的離乳と自”律”的態度へ向かう第二反抗期

・人の発達はその前の段階の水準によるとする理論を何というか

エリクソンの漸成理論

・エリクソンの発達段階説における葛藤の特徴はなにか

前の段階の葛藤は後の時期に解決できる

・環境が発達へ関係するのを重視するんを何というか

発達的文脈主義

・アイデンティティの４分類とそれを提唱したのはだれか

マーシャ

　アイデンティティ達成

　モラトリウム（解決できず）

　早期完了（迷いなし）

　アイデンティティ拡散

・二大選択とはなにか

職業選択と結婚

・学習意欲の低下を何というか

スチューデント・アパシー

・回復適応力を何というか

レジリエンス

・職場で青年期に直面する課題は何か

リアリティショック

バーンアウト

第13回

・次世代育成

ジェネラティヴィティ

・老年期の認知的側面についてまとめなさい

情報処理速度をはじめとした流動性知能の低下と認知症の発症率が上昇する一方、結晶性知能の向上がみられる

・思い出語りの効能とは何か

精神的な健康と自尊心の向上

ただし汚濁シーケンスを通してネガティブな出来事を語ると逆効果

・コミュニケーションを通じて伝達される

ナラティブ・文化的ライフ・スクリプト

以降、さぼりさぼり出席した授業中のメモであるが、冒頭に述べた通り、当然顧みられることなくクラスのシケプリから以上のまとめを試験前日に書いた。

10/03

心理学…人間の心や行動について追究する

心理学の意義

←調査・実験によって、人の心や行動に関する客観的な事実を導く

全体の傾向と個人差への留意

発達心理学

←人間の基本的な心や行動の発達過程について学ぶのを通して人間の基本的機能や事象（特に大人のように言語を介さないで）の本質的理解。

大人と乳児の物の見方・感じ方の差

☆そもそも1,2歳では視力1.0はない

☆乳幼児の心や行動を探る調査法や実験法では、言語教示できない。

←視線、行動観察、発達検査など

※舐める、は問題…？

☆乳幼児に関しては実証的に明らかか否かがわかっていない分野が多い。

☆最近のトレンドは生涯発達＝衰えまで含めての研究が増えている

参考文献

「実験で学ぶ発達心理学」金子書房（杉村伸一郎・坂田陽子　編著）

「心理学研究法―発達」誠信書房（山口真美・金沢創　編著）

年齢による区分

新生児　生後約一か月まで　Neonate　（知的能力を測れない）

乳児　1歳or1歳半未満　Infant

→新生児含む　2歳くらい（Toddler）は幼児

幼児　～小学校入学　Preschool children

→日本では三歳児クラス、などというが、平均年齢、という観点的な面からも欧米ではFour-year-oldsクラスという

児童　小学生　Children/Pupil

心理学史

J.J.ルソー：子どもは心理的、社会的、文化的に大人と異なる。

W.プライヤー：子どもの精神

C.ダーウィン：子どもの観察記録、表情の研究。

A.ビネー：知能検査の開発。

1897年　ドイツ　心理学実験室

第二次大戦後

行動主義の普及

A.ゲゼル　成熟説（歩行などのアクションに合わせて為すべきことが違うのでは？）

J.ピアジェ　生物主義的（普遍的な発達段階説）

L.S.ヴィゴツキー　社会的視点（2000年以降再評価）

某うびぇの

20C後半　「発達心理学」の名称の一般化

参考文献

「心理学史への正体」（梅本・大山）サイエンス社

ピアジェ・？・リクソン

10/10

乳幼児期“良好なアタッチメント”が必要

J/ボウルビィ

ハーローの実験

針金型母猿の実験

アタッチメントの度合いを測るストレンジ・シチュエーション法

ボウルビィがアタッチメントに関して示した説とは。

①人自体への関心②母親への反応（3－7か月）③愛着形成期（人見知りが出てくる）④愛着対象との身体的接近を必要としなくなる。他の対象への愛着の拡張。の四段階発達説

生物学的な母親でなければ愛着は…とはならない。

ピアジェ・ビゴツキー・生涯発達

児童心理学への招待　サイエンス社

やさしい発達と学習　有斐閣アルマ

心理学概論　遠見書房

発達心理学概論　放送大学

ピアジェの発達理論

・シェマ(suki-ma)

・同化と調節

・均衡化

～2歳ごろ

感覚運動期　6段階

反射・自分の体への行動（なめる）・物への働きかけ・目的を持ったリーディング・様々な試み・表彰（永続性の理解・延滞模倣）

gutaitekisousaki７＊8－11歳ごろ

保存課題が可能に

gutaitekinamononararonnriteki sousa/suirigadekiruouni.

三ツ山問題（最近はやりでない）→

１１－１５歳ごろ形式的操作期

仮説演繹的思考が可能に　比例のような具体性をともなわない

よくわかる認知発達とその支援　ミネルヴァ書房

ヴィゴツキーの発達理論

発達の最接近領域

自力で達成できる限界と他者の援助なしに達成できない水準のずれの範囲。

社会的・歴史的に形成された道具や記号（主に言葉）を用いた他者との交流

精神間機能→精神内機能

10/24

幼児の潜在記憶と顕在記憶

２）幼児では成人と同様に潜在記憶課題はできるが、顕在記憶課題ができない。

5-6歳ぐらいで成績が伸びる。

３）幼児の日常的な記憶

２,３歳の幼児の語り

大人から手がかりを得ながら誘導される形で語る。語り口も十分に身についていない

なにしたのか？といった漠然とした質問にはぽかんとしてる。自力で時系列に振り返るのはできない。

4，5歳の幼児の語り

自らの体験を意識的に解雇的に語るようになる。エピソード記憶・自伝的記憶の成立

幼児の記憶報告の信頼性

絵本の話とか混じる

2,3歳の幼児　手掛かりの誘導で数か月前の記憶を断片的に語れる

5,6歳であれば、一年以上前でも語る。

3,4歳ころまでの出来事の誘導は信頼できない（想像の話、誘導など）

顕在記憶　自覚的に思い出せる

…発達遅く、衰えも早い

潜在記憶　自覚的に思い出せないが行動に現れる

…年長の子どもも成人も変わらない

２）手続き記憶・意味記憶・エピソード記憶・自伝的記憶

手続き記憶　ピアノなど非言語的　かなり潜在記憶に依存する

意味記憶　テストされる記憶　言語発達の度合いに伴う

エピソード・自伝的記憶　4歳以降に急激に発達

３）長期記憶・短期記憶・ワーキングメモリ

短期記憶…数十秒以内

※感覚記憶　一瞬の記憶

授業聞いてるときに理解しながら聞く、ワーキングメモリ能力が大切やな

メタ記憶…こういう分野の記憶が得意だ、といったことを把握。

リスニングスパン（とリーディングスパン）

ワーキングメモリ話

複数の文を読んで主語を答えさせる。関連ない文だと6歳だと２程度、関連ある文でも3程度

12/05

GM…あおむけに寝ることのできる赤ちゃんの動き

自分の体や外の世界に触れて、赤ちゃんは自分の体と、そうでないものを認識する説がある

3か月ごろになって、お座りやつかまり立ちなどの「随意運動」ができるようになって消失

一か月　writhing

二か月　fidgety

三か月　なくなる

カオスな動き…原始反射がないときより早い時期（二か月前後）に中枢性障害が予見できる

⇔一般の検診項目にはなっていないうえ、診断にはベテランの腕に加えビデオによるかなり精密な解析によらないとわからない

☆原始反射ならすぐ診断できる

※原始反射との違いとは？

乳幼児期の社会的発達

声をたてて笑う…生後６か月

起きているうちは基本泣きわめいている

1.自発的微笑とは？

2.社会的微笑とは？

　1.新生児の覚醒水準が低下したときに見られる生理的な微笑で、養育者にとって高い頻度で正の反応。（親にとってストレスが減るなどいい効果がみられる、ということ）

　2.３か月ごろから見られる対人関係を志向した周囲の人の顔や声に反応して生じる微笑。

※人見知りはまだ見られない

※１０月ボルビさんの話

3.人見知りを専門用語で答え、発生過程を答えよ

　3.分離不安。２～３か月ごろまではだれに対しても反応するが、６～７か月ごろには家族やよく知っている人以外への積極的微笑はなくなる。７～８か月になると親などの特定の愛着対象への結びつきが強くなることによって逆に親から離れるような他者とのつながりに対して示す不安反応として分離不安がみられるようになり、自分の側から離れる（＝視界から消える）と抵抗する。１歳半から２歳ごろに終息することが多い

4.ストレンジ・シチュエーション法とは？

　4.分離不安の示し方によって愛着形成の様子を調べる

倫理的に疑問視されることもあるが、示唆の重要度が大きい

親との分離に混乱せず、親が戻ってきても避けたり無視したりする回避型（A型）が欧米に多く、分離で極度に不安がり、再開後に親に怒りを向け機嫌治らない反抗（アンビバレント）型（C型）が日本に多い。最も望ましいのは分離に混乱を示すが、再会すると落ち着く安定型（B型）で、一貫しておらず行動の憶測が立ちにくい無秩序型（D型）には子育てに何らかの問題があると考えられる。

5.心の理論を持つとは？どのように判断？

　5.ある行動を了解したり予測したりする方法として、自分自身や他者に特定の精神状態を帰属させる健常児の能力であり、誤信念課題によって有無を測ることができる。AさんがBさんのいない間にした行動について、Bさんがその行動を予測できないことが理解できるかといった課題で４歳ごろに正答率がぐんと上がる。これは一時的信念の理解についての物であり、入れ子構造的な２次的信念の理解は児童期半ばからのもので、これを理解すると、巧妙な嘘をつく、見破る、といったことができるようになり、手品の種が面白く感じるようになる。

　チンパンジー（×猿）ならば一次的信念の理解ができる

6.想像力の発達について

　6.現実世界と想像世界の区分があいまいな中で、ふり、見立て、ごっこ遊びといった遊びが想像力を発達させる上、イメージを共有するというコミュニケーション能力の発達に寄与する。

7.性格への意識の発達

　7.幼児期初期までは自己他者の性格についての意識が希薄で、２，３歳ごろは物の取り合いなどの喧嘩を引きずることがないが、四歳ごろ以降は過去のエピソード自伝的記憶を積み重ねることができるようになると、他者の性格ということ自体を理解できるようになり、一度生じた不和が長引くことがある。

8.物の永続性の理解

※親が戸の裏に行くといなくなったと考えるようになって分離不安を起こす

　☆ピアジェの発見？

　8.生後四か月ごろは、物体（おもちゃ）を布で隠すと目の前にあっても手を伸ばさなくなる。７，８か月ごろまでには布で完全に覆われない限り手を伸ばすようになる。布に完全に隠されても物体を探すようになるのは生後８，９か月以降であるが、別の布の下に移しても理解できずに最初にかぶせた布の下を探し続ける

9.数の理解

　☆馴化・脱馴化

https://bsd.neuroinf.jp/w/index.php?title=%E9%A6%B4%E5%8C%96%E3%83%BB%E8%84%B1%E9%A6%B4%E5%8C%96&oldid=35238

　五か月乳児ではいまだおおざっぱ　一歳半の序数の理解　コップの並べ方（間隔・距離）を変えても“左から三番目”を正しくこたえられるか？

児童期の認知発達

10.一次的ことばとは？

11.二次的ことばとは？

　10.親しい人との一対一の直接会話のための話し言葉

　11.一次的ことばに加えて書き言葉、不特定多数の人に向けた

小学一、二年生の作文、スピーチを通して、誰にでもわかる言語活動の二次的ことばの獲得が目指される

12.算数

　12.min方略（最小法）：5+9＝9+5から9から順に五つ数える

検索：過去の計算結果の記憶

分解手法：

幼稚園までは指でのカウンティング

読む書く訓練・漢字学習

計算・暗算

ピアジェ・操作期？

試験予想

幼児に対する心理学実験の倫理性について論じろ。

　メモ　問題がわかったときに幼児に対して専門家が働きかけることができる

多国間の心理学実験の結果の違いが出る理由について論じろ

　メモ　言語ごとによる被験者への問題の出し方の難易差

2019/01/09

成人期と危機

成人になりたて

リアリティ・ショック/ワークライフバランス

成人期と課題

中年初期・退職後（？）危機

ジェネラティヴィティ（…ジェネレーション+クリエイティビティ）の確立

次世代育成・次世代に向けた育成的な生産的活動　葛藤・停滞・乗り越えを通して

子育て・教育/ボランティア/介護

（エリクソンもこれの原形を提示）

生殖性

高齢期

老人の定義変更（？）65→70歳へ？

75歳～　後期高齢者

身体的側面

肺活量・循環系…身体能力

　肺炎

老眼・動体視力・高音部難聴…知覚能力

　白内障

☆応用分野に交通心理学というのがある

情報処理の速度・能力・推理・新奇への適応力の低下…流動性知能

動作緩慢・注意力の低下・反応時間の遅れ・認知症の発症率

短期と違って長期記憶は老化しにくい

自伝的記憶の効能？

結晶性知能の向上

文化的知識

社会的知能…トラブルなど問題解決

（責任・管理段階から再統合段階へ）

高齢期の精神衛生においてナラティブ/自伝的記憶の語りを通して自己の生の振り返ることが必要

カタルシスの解放

ポジティブな記憶を細かく語らせることで、精神的健康・自尊心が向上して認知症の進行が抑制される

　ネガティブよりも通常はポジティブな記憶を思い出しやすい

　救済シーケンス：つらいネガティブな経験でもポジティブ要素を見出して語る

⇔汚濁シーケンス

文化差

家族心理学

しつけ

　米…自己主張の重視

　日…従順・感情制御・礼儀

コミュニケーションで求められるものの差

画を見て語らせてみると

　日本…善意の解釈

　中国…悪意の解釈・教訓的

　米国…対処法を語る

国内でも都市と地方で差

　幼稚園教育

勉強…米中で高め　日本では0に近い

友達と遊ぶ…日本で顕著

　作文教育

米…結論から書く因果的に書く

日…時系列的に

帰阪・道徳的評価

敬称

　日本・内外の別

はい・いいえ　と　Yes/No

原因が明らかにならないと謝罪しない

遠慮・謙遜　自慢

語り口や語る内容

文化的ライフ・スクリプト

ジェネラル・ムーヴメント？